

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



人類に
奉仕する
ロータリー



第1257回 例会報告 (2017年5月11日)

講師例会

青少年奉仕

■司会 / 大泉博典 SAA ■ロータリーソング / 君が代、奉仕の理想

■ゲスト / 水野典子 様 (鈴鹿市青少年育成市民会議 会長)

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

本日は、鈴鹿市青少年育成市民会議の水野典子 会長を卓話の講師にお迎えし、鈴鹿市の将来を担う子どもたちを、いかにして守り育てていけば良いのかをお聞きします。

さて、前回も子どもたちを取り巻く環境は、大変厳しくなりつつあるという話をしましたが、先生の勤務状況も大変苛酷になっているということです。三重県では教員の勤務時間短縮に向けた対策に乗り出すことが、今朝の新聞でも報道されました。その一方で、学力向上・新指導要領への対応などで、先生の負担は増え続けています。今こそ、地域が支える必要があります。学習ボランティアや、米づくりの体験学習などで、現在でも支援はされていますが、さらに内容を深め、名実ともに「コミュニティスクール」とすることが求められています。

我々も、「おじさん先生」や松の苗木の植樹などで、協力していますが、今後益々活動の幅を広げ、子どもは地域の宝物として、地域ぐるみで守り、育てていきたいと思えます。

■幹事報告 / 川岸憲博 幹事

(1) 来週は、AG訪問例会です。ジャケットの着用をお願い致します。

(2) 5月22日(月)に市立鼓ヶ浦中学校で開催されます「おじさん先生 出張講座」の実施要綱を担当の方のメールボックスに入れさせていただきました。

(3) 理事(新旧)役員会を例会終了後に開催致します。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
5月11日	12名	12名	0名	100%

2週間前の補正後出席率 12名中 11名 91.67%

■ニコボックス

平野泰治……水野典子会長、今日はありがとうございます。卓話楽しみにしています。

川岸憲博……水野典子様、本日はお苦勞様です。お話し、楽しみにしています。

宮崎弘夫……水野様、本日は楽しみにしてまいりました。よろしくお願いいたします。

■例会 ／ 講師例会 ／ 鈴鹿市青少年育成市民会議 会長 水野典子 様

皆さま こんにちは。青少年育成市民会議 会長の水野でございます。ベイロータリーの皆様には、ご支援ご協力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

少し、自己紹介をさせていただきます。わたくしは、38年間小学校で教員をしておりました。退職後、3年間、小学校・中学校を回って、若い先生方の授業を見て、指導をしていました。

41年間、たくさん子どもたち、保護者や地域の方々、先生たちと出会い、大変なこともたくさんありましたが、教師をしていてよかったなと思っています。そして、教師を辞めるときに、「急に暇になると、老けるよ」とか、「教員の世界しか知らないけど、いろいろな人と出会えて楽しいよ」と言われて、ほんとに気軽な気持ちで市民会議の会長を引き受けました。



通称、市民会議と言われていますが、正式には「鈴鹿市青少年育成市民会議」と言います。名前の通り、青少年の健全育成を目指していますが、市民会議の目的は「この会は青少年問題の持つ重要性を深く認識し関係機関、関係団体との緊密な連携をはかりながら、市民の理解と協力を得て青少年の健全育成を推進する事を目的とする」となっております。活動内容としては、以下のとおりです。

1. 地区青少年育成町民会議活性化支援のための活動
2. 青少年がその誇りと責任について自覚を高めるための活動
3. 健全な青少年団体およびグループ活動の育成と、すべての青少年がこれに参加することを奨励するための活動
4. 明るい健康な家庭づくり、地域づくりを進めるための活動
5. 青少年のかかえる諸問題を解決するための活動
6. 社会環境の浄化をはかるための活動
7. その他この会の目的を達成するための活動

始まりは、昭和41年に社団法人青少年育成国民会議の設立です。その後、県の段階（県民会議）、市町村の段階（市民会議）、各自治会の段階（町民会議）という具合に作られてきました。国民会議は、平成21年8月に財政難のため解散しています。鈴鹿市では、昭和53年3月に結成されています。設立された理由は、こどもたちの非行問題と大きく関連しています。少年非行の波が、昭和39年ピークを迎え、深刻な状況になり、41年に国民会議が設立されます。一旦、非行の波は下降するものの、40年半ばからまた上昇し、鈴鹿市の市民会議が設立された53年は、ピーク差し掛かっているときでした。

非行の低年齢化や、ごく普通の家庭の少年による遊び型の非行が目立っていました。それとともに、暴走族による凶悪・粗暴事件や 中・高校生の校内暴力事件などの集団による非行、あるいは、シンナーや覚せい剤などの薬物乱用などが著しく増加しているほか、家庭内暴力も問題になってきました。一方、少年を取り巻く社会環境はますます悪化しつつあり、少年に有害な影響を与える出版物、広告物、映画、放送などの氾濫や深夜喫茶店、ディスコ、ゲームセンターなどの増加など、青少年の非行を助長し、健全な育成を阻害す

る要因が身近にたくさんある環境でした。こういった状況の中で、学校・家庭だけでなく、地域で子どもを育てていくという、地域の教育力の回復なしにはこれらの課題の克服は難しいだろうという強い危機意識の中で作られていったものということです。

私が教員になったころは、まだ小学校は落ち着いていましたが、中学校・高校は荒れていて、大変だったことを思い出します。こんな時に、市民会議ができていたのです。

発足当時は、各団体が理事を出し、行事計画を決めていました。具体的な活動は部会制をとり、各団体から部員を指名し活動をしていたそうです。多いところでは、市のPTA連合会は20人ぐらいの部員を出していたようです。

専門部は、育成部、家庭部、非行防止部、地域活動部の4部会で成り立っていました。深夜喫茶やゲームセンターなどを見まわったり、有害図書の追放に取り組んだりと非行防止に力を注いでいたようです。理事会で話し合い、各部で積極的に活動する姿が見られます。「何とかしなければ」という強い思いがあり、活動も充実し、すごいなと思います。現在も、基本的な体制はほとんど変わっていませんが、意識や活動は、下火になってきています。

各部の活動ですが、地域部では、町民会議と共催で「指導者と子の遊び学」「町つくりと町民会議・市民会議の役割」をテーマに研修会を行いました、育成部は、体験教室を、山上さんを招いて、「子どもアイデア楽工」

総務部では、小中作文コンクール「社会を明るくする運動」に併せて作文を募集表彰情報部の市民会議だよりを発行しますが、1回は全戸配布、2回目は回覧全体で、公開講座「つなぐ」三重県在住の作家村上しいこさんの講演社会を明るくする運動キャンペーンなどの啓発活動自画自賛ですが、どの内容もいいものであったと思っています。市民会議だよりも、カラー刷りに、写真を多くして読みやすく。しかし、内容までは変えることはできませんでした。でもこのままではいけない。どう変えていけばいいのか、役員会で話し合ってきました。

今の子どもたちを取り巻く状況を見てみますと、暴力、非行など外へ現れていたものから、（実際、補導される人数は、減っています。）引きこもり、いじめ、スマホやインターネットによる被害、家庭内暴力、虐待など、内にこもる、目に見えにくいものになってきていることが、却って危険な気がします。

変化の原因は、核家族化、少子化、夫婦共働き、長時間労働、地域の繋がり希薄化などがあげられます。子どもたちは、塾や習いごとなどで放課後一緒に遊ぼうにも時間がない。安全に遊べる場所もない。少子化で近くに友だちもいない。昔は大きな子がリーダーとなって、小さな子を連れ連れて遊んでいました。その中で、大きい子が遊びをリードし、小さい子への配慮、協力の大切さ、我慢すること、ルールを守る大切さなどを学ぶことができました。遊び道具がなくても、いろいろ工夫したものです。

自由に外で遊ぶ子が少なくなりました。それを、子どもがしないんじゃないかと、できなくなっているのではないのでしょうか。だから、テレビやゲームへと移っていった理由でもあると思います。

家庭生活も変わってきています。核家族で、地域との付き合いも少ないと、気楽で自由です。でも、失っているものも多いと思います。忙しい親にかわって、おじいちゃんやおばあちゃんがホットする場になります。親は、おじいちゃんやおばあちゃんから子育てにつ

いて学ぶことも多く、助けてもらうこともできます。近所付き合いがあれば、話を聞いてもらうことも、ちょっと預かってもらったりすることもできます。

子どもには、遊びや様々な体験やいろいろな年齢の人と交流のなからコミュニケーション力、想像力、忍耐力、社会模範、他人に対する思いやりや自制心を身に付けていきます。遊びや、様々な体験、家族以外の人とのふれあいが、少なくなっていることが問題になっています。保護者にとっては、地域の人とつながりが薄くなり、親が身近な人から子育てを学ぶ機会が減り、子育ての悩みを気軽に相談できる人がそばにいなくなっていました。仕事と家庭の両立の難しさなど、様々な要因を背景として、家庭が孤立し、忙しくて時間的に精神的にもゆとりを持てない状況になり、児童虐待など家庭の問題も深刻化しています。家庭・地域という土台が揺らいでいる今、社会全体で考え、支援していくことが必要とされています。

こういう子どもや親の状況を考え、また、今の市民会議の状況の中で何ができるのかを考えました。

まず1つ目は、いろいろな経験が不足している子どもたちには、体験を通して「考え創造し」「つながり」「ふれあい」「活躍」の場を親には、「子ども理解し」「ふれあう」場を提供したい。中・高校生が参加できる場にもしていきたい。リーダーとして活躍できる場も作れたらと思います。

2つ目に、理事会を、「つながり」「協力」する場に。各団体で、素晴らしい活動をしていただいています。理事会で、各団体の青少年育成に関する取り組みを発表し、各団体が連携・協力できることを探っていく場にしていきたいと思っています。また、今起っている青少年の問題についても話し合いたいと思っています。

3つ目に、市民会議だよりを「知らせ」「広げる」場に。活動報告が主な内容でしたが、今年度は、年3回。A3裏表印刷として内容の充実を図っていききたいと思っています。会員になっていただいている各団体さんの活動内容や各町民会議の活動の様子を載せていきたいと思っています。（非常に熱心に活動していただいていることを紹介したい。）また、市民会議って何？と思ってらっしゃる方がほとんどなので、成り立ちや、目的としていることを載せていきたい。青少年に関わる話題や理事会で話し合われたことも載せ、問題提起をしていけたらいいなと思います。部会については、とても難しい状況です。役員会で対応していく部分が多くなってしまうのは仕方がないかなと思っています。

そして、今困っているのが、会員の減少です。支援団体の資金不足や人不足で退会する団体や個人会員の減少、また、鈴鹿市からの補助金の減額（172,000円）により、運営費が少なくなってきました。会場費、講師料、市民会議だよりの印刷料など活動を活発化させたいと思うと、お金がいきます。企業や個人の会員さんを増やしていくのが課題です。まずは、市民会議を知っていただくこと、活動内容を充実することが大事だと思いますので、頑張っていきたいと思っています。リーフレットに入会申し込みをつけています。もし、個人会員になっていただけたら嬉しいです。

長々と、自分の思いだけを伝える話になってしまいました。これに懲りずに、益々のご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。聞いていただき、ありがとうございました。